

航空輸送の安全にかかわる情報の報告（平成 29 年度上半期）（要約版）

1. 航空事故・重大インシデントの発生の概況

平成 29 年度上半期において、本邦航空運送事業者の運航に伴う航空事故は発生しておらず、次のとおり重大インシデントが 1 件発生した。

- 平成 29 年 9 月 5 日、日本航空機（ボーイング式 777-300ER 型）が、東京国際空港 C 滑走路を離陸滑走中、第 1（左側）エンジンに不具合が発生したことを示す計器表示があったため、離陸後、当該エンジンを停止し、引き返し、同空港 A 滑走路に着陸した。（発動機の破損（破片が当該発動機のケースを貫通した場合に限る。）に準ずる事態）

2. 安全上のトラブル等の発生概況

平成 29 年度上半期においては、重大インシデントが 1 件及び安全上のトラブルが 529 件の合計 530 件の安全上のトラブル等が発生しています※。

※本邦航空運送事業者から安全上のトラブル等の報告が 664 件ありましたが、同一事象に関して複数報告された事案については、ここでは 1 件として計上しています。

安全上のトラブルの内容別分類件数^{注 1)}

機材 不具合	ヒューマンエラー						回避操作		発動機の 異物吸引 による損傷	部品 脱落	危険物の 誤輸送等 注 4)	その他
	運航	客室	整備	地上作業	製造	その他	TCAS RA 注 2)	GPWS 注 3)				
182	46	6	89	42	6	0	86	13	9	4	17	29
	189						99					

注 1) 分類別の件数は、今後の要因分析の進捗により変更されることがあります。

注 2) 航空機衝突防止装置の回避指示に基づく回避操作を表します。

注 3) 対地接近警報装置の指示に基づく回避操作を表します。

注 4) 危険物の漏洩を含みます。

3. 安全上のトラブルの評価・分析と今後の対策

第 22 回航空安全情報分析委員会において、平成 29 年度上半期の安全上のトラブル等について審議した結果、それぞれの事案について、関係者により必要な対応がとられており、引き続き適切にフォローアップを行っていくべきことが確認されました。

また、引き続き、安全上のトラブル等の航空安全情報の分析に基づく、機材不具合への是正対策、ヒューマンエラー防止に向けた取組み、TCAS RA や GPWS による回避操作に係る情報収集を進め、各事案への対応を適確に行うとともに、安全情報の一層の活用により、個々の航空運送事業者の環境に応じた監査を実施するなど、更なる輸送の安全確保に向けた取組みを進めることが必要であるとの評価を受けています。